打線沈黙…今永連勝ストップで痛い黒星

1回戦
13年春季リーグ
第7週・5月22日
8勝3敗

駒大2－4国学大

駒大	1	0	1	0	0	0	0	0	2
国学大	3	0	1	0	0	0	0	0	X 4

勝ち点を奪えば優勝が決まる国大戦初戦。初回、江越大賀(法3)の適時内野安打で幸先良く先制。だがその裏先発・今永昇太(経2)が3連打を浴びるなどし3点を奪われ逆転を許す。3回1点差にせ迫るが、その後は相手先発・柿田(4年＝旭川大高)の前に打線は沈黙。試合はそのまま終わり初戦を落とした。

連勝が6で止まった今永

初回、1点を先制して迎えたその裏、ここまで6戦6勝の先発・今永が踏ん張りきれない。「やっぱり序盤甘い球が多くて真ん中に集まってしまった」と話すように、連打を浴びると4番には右翼線適時二塁打を放たれあっさり同点に。三振を奪い2死とするが、次は中前に運ばれ2点を勝ち越されてしまう。

「2点くらいなら打線がひっくり返せるので、3点差にはならないようにした」と、4回以降は粘りの投球で無失点に抑えるが、一方打線は「緩いボールを打たされて絞り切れなかった」と西村亮監督が話すように相手投手の緩急を使った投球に翻弄され、8回までわずか2得点。

最終回、2死一、三塁の好機で「柳原さんに代わってチームのために1本打とうと思って」と打席に入ったと話す代打・前田滉平(法2)も、結果は遊ゴロ。無得点に抑えられ、2－4で試合は終了。

自力優勝を決めるには2連勝が絶対条件という厳しい状況となった

文＝山本春熙、写真＝五十嵐秋音

(4)砂川	3	2 0
(7)齋藤	3	0 0
(6)下川	4	0 0
(8)江越	4	2 1
(5)福山亮	4	1 0
(2)木下	4	1 0
PR松本	0	0 0
DH柳原	2	0 0
HD前田	2	0 0
(9)西村凌	2	0 0
(3)篠原	2	0 0
計	30	6 1

	回	打安責
●今永	8	32 8 4

2回戦
13年春季リーグ
第7週・5月23日
9勝3敗

圧勝！逆転勝ちでV王手

国学大3－10駒大

国学大	2	0	0	0	0	0	0	1	3
駒大	3	0	2	0	0	0	5	0	× 10

〝背水の陣〟そんな状況のなか駒大が大勝した。2点を先制された直後の1回、下川知弥(営3)と木下祐志(営3)の適時打で逆転に成功。その後も着実に加点し主導権を渡さなかった。

投げては先発の片山雄貴(商2)が7回2失点の粘投で、チームは23季ぶり優勝に向け望みをつないだ。

試合は初回から動いた。先発の片山が先頭打者に左前安打を許すと、2失策と適時打であっさり2失点。厳しい立ち上がりを見せる。だが、打線は直後の1回裏、1番の砂川哲平(法3)が安打で出塁すると、下川と木下の適時打などで3点を奪取し、すぐさま逆転。3回には2死三塁から「ストレートを狙っていた」と話す福山亮(経2)が、狙い通り内角高めの真っ直ぐを振り抜くと打球は右翼席に飛び込む大学初本塁打に。大事な一戦での一発に福山はガッツポーズを見せ、ベンチで吠えた。

「いつも今永に頼りきりだった。今回は自分が投げてカバーして3戦目につなげていく気持ちで」と話した片山も、初回以降は落ち着いた投球で7回2失点にまとめマウンドを降りた。打線はその7回にも砂川の内野安打を皮切りに相手の制球の乱れなど打者一巡の猛攻で一挙5得点。これが試合を決定づけた。

試合後、明日の決戦に向け西村亮監督は「最後のリーグ戦の1試合を勝って終わるという意識」と、これまで通り目の前の試合に集中していく考えだ。

連敗すれば自力優勝消滅の状況から一転、今度は01年秋以来のリーグ制覇に王手をかけた。

文・写真＝松井智子

大事な一戦で大学初本塁打を放った福山

(9)砂川	5	2 0
(7)齋藤	2	1 0
H7横嶋	1	0 0
(6)下川	3	3 1
(8)江越	2	0 0
(5)福山亮	5	2 4
(2)木下	3	1 2
DH篠原	4	0 0
(3)西村凌	3	1 1
(4)福山慎	3	1 0
PH柳原	1	1 0
PR松本	0	0 0
計	32	12 8

▽二塁打＝木下
▽本塁打＝福山亮

	回	打安責
○片山	7	28 5 1
箱島	1	3 0 0
高橋	1	6 2 1

松本主将が選ぶ！

今日のベストプレーは…　「福山の初ホームラン！！」